

# 正しい人の罪



兄弟姉妹の皆さま

いつも聖三位一体への信仰をもって生活されていることと思います。今年の夏の暑さを感じながら、一人ひとり神に託された使命を果たしていると思います。暑い日々が続いていますが、皆さんお変わりありませんか。

祈るために二人の男性が教会を訪れる姿がありました。

一人は目を閉じながら祈っていました。現在の自分と他の人の存在を比べながら祈りました。この人は罪を犯したと聖書には書かれています。自分の罪をよく考えないまま、宗教への義務を忠実に果たしているからきっと自分が誰よりも正しい、そして、天のすべての祝福と誰よりの恵みを必ずいただけるはずとっていました。

もう一人の男性は教会の入り口近くに座りました。上に目を上げることを恐れ、祭壇の近くまで近づこうともしませんでした。いと高き所におられるお方に対して自分は何者か、祭壇の後ろにおいてある十字架を見るのもふさわしくない自分を見つめ、ずっと頭を下げ祈りました。この人は、朝の光を見られるのは神様の御意思次第だと思い、栄あるお方の前に自分は灰にすぎないと感じて、胸をたたいて反省しながら、父よ、罪によってあなたからも、他のひとからも、自分からも離れてしまった私に慈しみを...と祈っていました。

この男性は父に正しくされた人として、大喜びのうちに家に帰りました。全てをご存じのお方の前に自分が誰よりも正しい人間として考えていなかったからです。

2024年9月

カトリック上野毛教会 主任司祭  
ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.